

新潟県

公民館月報

昭和60年12月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・泉林楽会館内】

【電話・新潟 (0252) 24-6073】〔振替新潟0-4049〕

発行人 会長 佐藤 眞武

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 120円 年産 1,440円】



舞子綾

「冬になると女谷の村は、雪ですっぽりとまみり、なまり色の雪空がおもくたれさがりました。」

しかし、あや子の家からは、ふえの音、つづみの音がに

ぎやかにきこえてきます。「なんとという舞だ。旅人がたずねました。」

「あや子の舞さ。村人がこたえました。——」

これは柏崎の民話の一節である。

綾子舞は、現在ノ国指定・重要無形民俗文化財として、黒姫山麓の高原田(たかんだ)下野(しも)の)に伝わる柏崎の誇る芸能で黒姫神社の祭礼(九月十五日)に演じられている。

踊り・囃子舞・狂言の三種に分かれ、踊りは小原木踊りなど十一種、囃子舞は恵比須舞他二十二種、狂言は海老すくい等三十三種あり、初期歌舞伎を知る上で重要な芸能史上価値の高いものである。

(絵と文)

吉田 耕也

柏崎市社会教育指導員
日本水彩画会会員

第8回全国公民館研究集会

岡山に2,200名が



公民館は出合いの広場

申核施設としての役割を認識

さる十月十七日、十八日の両日、第八回全国公民館研究集会在岡山市で開かれ、全国から二、二〇〇名が参加した。本県からの参加者は佐藤会長をはじめわずか四名であったが、柏崎市中央公民館の徳間助夫事務長は「コミュニティ活動の諸問題と今後の在り方」を研究主題とする第十五分科会で、柏崎市における実践事例を中心に基調発表を行なった。また本県からは石井耕一前会長（豊栄市長）が全国公民館連合会の副会長として参加し、分科会や全体会の役員として活躍した。この研究集会の成果は、十二月に東京で開かれる全国公民館振興大会に反映される。

このたびの研究集会のねらいは十九分科会で構成され、それぞれ『生涯教育の推進、地域文化の振興、コミュニティへの住民の期待が高まる中で、社会教育の中核施設としての公民館の役割、管理者相互の討議、最後に助言指導と理経管、効果的な活動の在り方を明らかにする』とするもので、第一日目の十七日は、朝九時三十分から十九分科会では県会のセシモ二に続いて直ちに基調発表と討議が行われた。

分科会では管理運営部会が四分科会、事業活動部会が十五分科会の

柏崎市が作成した「コミュニティづくり広報版画」を「コミュニティ

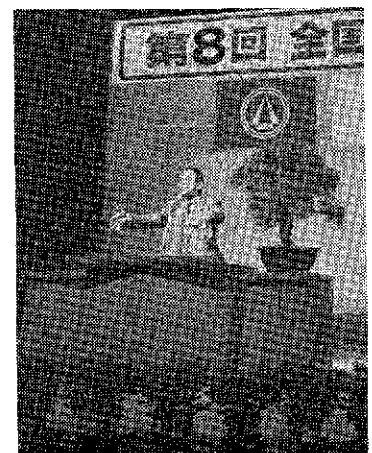
りのめきすもの——柏崎からのレポート」(十六ミリカラー三十分)も上映され、百七十八名の分科会関係者にきわめて好評であった。

研究集会第二日の十八日は全体会で、開会式の始まる午前九時には会場の岡山市民会館大ホールは二千三百人の参加者で埋まった。開会式では地元岡山県公連会長である横山正八氏が「明年五月に予定されている臨時教育審議会の最終答申に、このたびの研究集会での成果が活かされる、真の教育改革がなされることを期待する。」と開会のあいさつをされた。

続いて文部大臣、岡山県知事、岡山県議会議長(いずれも代理)から祝辞があり、岡山市長の歓迎の言葉があつて式を閉じた。

○ 続いて岡山市出身、現在、国立岡山病院長の山内流郎氏の「出会い」と題する記念講演が行われたが講師は、国立岡山病院小児科医長、同病院小児科医藤澤シスター長の経歴を持ち、昭和五十一年には鹿児島県に誕生した五子の子保育を指導された方で、専門家としての豊富な体験をまなえながらの講演は、聴衆に深い感動を与えた。内容のいくつかが紹介する。

- ※ 公民館は出会いの場であり、館長は出会いのプロフェッサーであり、テレクスターでもある。
- ※ 神学者フーバーは「出会いには魔龍のあかきがある。」と云っているが、出会いには運命と責任がある、出会いには運命と責任がある、出会いには運命と責任がある、出会いには運命と責任がある。
- ※ 人生において重要な意味を持つものであるか否か、しみじみと感じている。



記念講演



公民館運営のあり方を考えるの

昨年春以来館長を勤め一年間 精進を続けて来たが、二年目の 今年ばかりも関ノ口市郷民大 会に参加する機会を与えられ



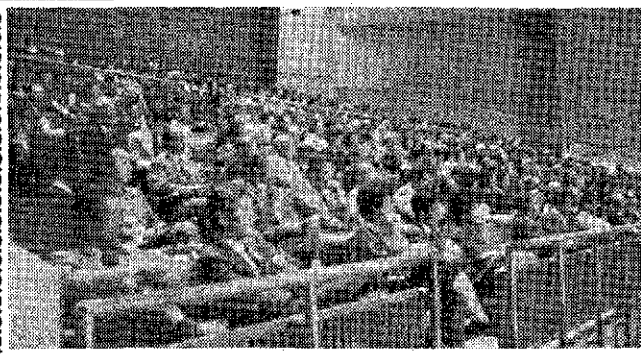
また去る十月十 越前区公民館研 究大会にパネル マンとして発表 の場に立たされ、自分なりに 公民館運営のあり方を考えるの

公民館運営への展望

元井弘作

想う公民館活動が、真に地域住 民のものとなりその期待にこた えるためには、公運審のあり方 を見直す必要を感じる。現状と して止むを得ない点もあるが、 形骸化した公運審では存在価値 がないと思う。住民のこころを真

習・研修会等、または隣町村 公民館主催の講座等は、差し支 えない限り開放を。また、たまたま うか。そのためにはあらかじめ 相互に情報交換し、公民 館は広報を以て住民に周知を図 るなど、細かな手をたがう (三島町公民館長)



主会場風景 (2F)



第15分科会

。人生における最初で最大の出合 いは母親との出会いであり、人 間にとってもっとも大切な愛、 ほほえみを教えるくれるのも母 親であって、母乳を育てるひと と子を何よりも大切にしてくれ たい。

国民館研究集會はその幕を閉 じた。(倉真上、主会場の参加者、下 第15分科会)

公民館の絵画教室での 傑作、利用グループの中 で絵をよめる人の作品 なく、なるべく多テ位置 で書かれたもの。 絵の内容は「名勝、旧 跡、文化財」などのほ か、表紙にふさわしいも のであればなんでも結構 です。説明文は四百字程 度でお願いします。

私ははた織り 尾身フミ 今日私小さな部屋で はたを織る カチャーカチャーと はたを 織る もう年も若くはない でも又いつまでも織らなくては ならないか…… 肩がはる 痛い でも 私は今も はたを織る

あと 五年か 十年か 十五年くらいか 考えると気が遠くなる でも 私のがんばるつもり 今日小さな部屋で はたを織っている 明日もそのつぎの日も はたを織るでしょう がんばれ がんばれと 毎日自分に 言い聞かせている 今の私です。 十日町市吉田地区公民館発行 「信江」より

果す公民館活動のあり方 (3)

にお考えになりますか。

前田 広い意味の視聴覚教育の一環としてやっていかねばならないと思います。

公民館としてはきっかけとなる基礎的な講座を組むことは必要であるが、指導者や設備で公民館独自で対応するのは難しいと思います。これこそ企業と公民館とが連携し合うのにふさわしいと思います。

池葉 それでは会場のみなさんからご意見ご質問を受けたいと思います。お手をお上げください。

会場からの質問

公民館を類似施設などのセンターとすべきであるというお話がありましたが、具体的にお聞かせください。

石井 公民館の制度についてはいろいろと論議があるし、現在の社会教育法も不備であります。

そこで全公連も公振連もこうしたことについて具体的に取り組みねばならないと思っているが、市町村の方で公民館の基準を十分弁えていないような気がします。

昭和43年に社会教育法が大幅に改正され、公民館に関する規定が強化され、公民館設置基準が文部省国庫補助で決まっている。

全公連で公民館の実態を調査するが、地域によって公民館の設置がさまざまである。

今市町村で総合計画を作り直しておられるところが多いようであるが、公民館の実態を調査し、今後の方向づけに取り組んでいただきたいと思います。

会場から 先ほど質問しました公民館をそのセンターとすればいいという具体的な考え方をお聞かせください。

石井 政府が各省で縦割行政の中で法的根拠もなくして施設を乱立させているが、公民館関係者は文部省が法律に基づいて建設しているのだから、公民館に統一してくれるようお願いしているが統一できそうもありません。

だから、公民館がセンターとして連絡調整していくべきだと思います。

コミュニティは総理府・自治省が言うようなコミュニティセンターだけではなく、小さな地域社会であるから、生活改善センター、老人いこいの家、などすべてコミュニティセンターと考えて、公民館が連絡をとりあって、目的がひとつであるから、分担していると考えていきたいです。

会場から 前田先生にお伺いしたいと思います。

先ほど現代人の心の揺れということで、中・高校生のわれ関ぜずの精神状態をお聞きしましたが、これはなぜなのでしょう。

もうひとつ別の機会に「集めるよりも集まる」プログラムをたてるようにというお話をお聞きしましたが、具体的にどのようにすればよいでしょうか。

前田 心の揺れはさまざまあるが、将来を見通せない中・高

校生の心ほどの時代においても揺れていたと思います。

しかし、その揺れをだれかが受け留めてきたし、方向づけてきた、それはやはり普段接している親だと思えます。

親の生き方を見て揺れながら、信念を培っていく。

単眼的なひとりの自分を中心とした物の見方から、相手から自分の行動を見ていく批判精神を身につけていくことができた。

ところが、今は極端な言い方をすれば、親も子も同質である。

ことばを換えていうならば親の知っていることも子どもも知っていることも同じである。ということは経験していることが同じである。

やはりそこで、子どもの揺れを支えてやる大人がいないのではないか。かつては子どもの経験がさまざまであり、子どもは習うより慣れるでいろいろなことを考えていた。

しかし、今はそういう場面が少ないので、広くものをみつめる機会が少なく、そこに問題がある。やはり家庭教育に問題がある。

それから集めるから集まるプログラムということですが、大変に難しいと思います。

魅力あるプログラムとは何かとなると、ひとつは人々が何を求めているかをキャッチすることもうひとつは地域に必要なものを気づかせていくものを提供することではないでしょうか。

池葉 ありがとうございます。質問ご意見ございますか。

ないようでございますので、パネリストを代表して石井さんからまとめていただきたいと思います。

石井 まとめというのは非常に難しいのですが、先ほどの第5次専門委員会の答申を得た「生涯教育時代に即応した公民館のあり方」(資料に添付、後ろから5ページ)の中で、公民館は他の教育的諸機関との根本的な相違点は、住民の直接の生活にかかわる地域社会に本格的に結び付き得るか否かにある。また公民館の活動方式は、住民自身の中にある生活向上のための底力を掘り起こし、これに方向づけを正しく得るための教育刺激を与え、学習の結果を地域社会生活に還元するところに重点を置くと基本的事項が書かれてあります。

住民が基本であります。私たち自らが幸せのためによい家庭や地域をつくることを基本にして、それに基づいて地域課題を掘り起こして魅力あるプログラムをたてていく。

そのためには、目的がひとつであるが、バラバラにある類似施設との連絡調整をしあっていく、これからの公民館のあり方だろうと思います。その立場でもう一度公民館のみなさんが公民館を見直していただきたいと思えますし、また関連する団体、大きくいえば市町村全体の問題になるかと思いますが、第5次専門委員会の答申をよく読んでいただき、それぞれの公民館・市町村でどのように実践していくのか取り組んでいただきたいと思えます。(終り)

第36回新潟県公民館大会 パネル討議のあらまし

生涯教育の基幹的役割を

池葉 6人の方からご発言をいただいたわけですが、それぞれのお立場で有意義なご発言もたくさんあったと思います。

今まで発言されたなかで、言い足りなかったことなど補足していただきます。

山県 学習内容の充実ということで、高齢者の生きがいにつながる学習ということで述べさせていただきます。

高齢者学級と婦人学級との交流学習会や高齢者から子どもへ縄づくりを教える生き生き活動など世代間の交流会があります。

高齢者の人生経験や生活の知恵は貴重な社会資源であるから、若い人に手づくり文化のよさを伝達してほしいと思います。

また社会資源の活用だけではなく、高齢者の生きがいにつながっていくものと思います。

増井 コミュニティセンターについて補足説明を申し上げます。

施設の利用団体に制約があり、営利を目的とする団体や特定の政治活動・宗教活動の団体は利用できません。

開館当時、会場で図書の販売やカンパ集めがあり、問題になったことはあるが、あまり問題はございません。

利用団体は自治会やPTA団体のほかに自主運営サークルが12・13あります。

利用者と接する管理人には取扱いに不親切にならないことと依怙鼻負がないようにとお願いしてあります。

また利用者には機会があるごとに市の施設であるけれども、自分たちの施設であるという認識をもってもらうように努力しています。

そのためかどうか、喫煙コーナーの設置を利用者同志で自主的に決めて実行しており、運営委員会でも非常に感謝しております。

本間 これもひとつの例ですが、千葉県の酪農を営む農家に東京の娘さんが嫁ぎ、そこの青年活動に今までと違うアイデアを提案しているそうです。これがすなわち発想の転換ということではないでしょうか。

生意気なことを申し上げるようですが、皆さんは「お役所仕事」といわれるかどうか分かりませんが、不要なところは省いて担当者がやりたいことはやらせてもよいのではないかと。またお金がかからない方法もあるのではなからうか。お金がかかるとしても、申込者がいるならば、集まってきた人からいただいてもよいのではないかと。

そして二つが相互で乗り入れて会議などを開かず、お金をできるだけ使わず気楽な形で仕事を進められたらよいではないかと。こんなような時代になってもよいのではないかと、判子行政の枠を取りはずす発想などはいかがでしょうか。生意気なことを申し上げます。

高井 先ほど必要課題や生活課題のお話が出ましたが、いくつか調査しましたところ、住民の学習の機会を拡充するために調査が必要ではないかということで、社会教育調査を住民

2000人を対象に実施し、76%の回収率でした。

青年意識調査、地域実態調査、また長期総合計画の中で見直しをはかるために10年ごとの住民調査を行っています。

それから社会教育推進委員や公民館に依頼し、住民の生の声を聞くように心がけています。

それらの広聴活動を通して少しでも学習を広げ自ら学んでいただくような公民館活動を展開していきたいと思えます。

前田 人生が長くなって宿題が多く、ストレスもまた多くなってカッカするたびに寿命が短くなるといわれています。

バード氏は「エイジレス人間の時代」という本を書きました。

これは年齢のない人・年をとらない時代つまり年齢に関係なしに自分の人生を燃焼し尽くす時代がくるだろうと思われまます。

世界的に有名な選ばれた人ではなくすべての人が自分の人生において自分の能力を燃焼して老いていくそういう時代になるだろう。

それは非常に難しい。たとえば90才になってさあ燃焼しようと思ってもできるはずがない。その前に先立ってある節を充実させた結果として人生が全体が燃焼したといえる。

その視点から考えると、成長していくのは住民であっても、それを励ましていくのはやはり公民館である。

燃焼するのは住民だが、公民館は火付役になってほしいと思えます。

石井 どうも私は、公民館を教育の範囲に捉えないで市町村全般の中に考えているようです。教育であれ、福祉であれ、産業振興であれ、目標はひとつである。

それはひとりひとりの人間を幸せにすることにある。人間を幸せにするために、まず円満な家庭がなければならぬ。またよい地域社会がなければだめだし、大きくいえば、日本が世界がよくなければだめなんです。

目標はひとつであるから、それぞれ分担をしながら連絡調整をして総力を上げて前進していく必要がある。

先ほど前田先生がいらしてられるが人生を燃焼して充実した人生送っているか。価値が多様化し、情報の過剰のなかで自分の生き方を見失ってしまっているのではないかと。

公民館は価値の多様化や過剰の情報の中で、それらを整理し、どのようにして人間ひとりひとりに自分の人生を決めてもらうか、幸福な家庭を築くかよい地域をつくるかその課題に取り組んでほしいと思えます。

池葉 一通みなさんに補足意見を述べてもらいましたが、司会の立場でひとつ質問させていただきたいのですが、ちょっと口幅ったいのですが……。

前田先生にお伺いしたいのですが、利用者代表の山県さんが一障害者も学習の場をもっと作ってほしいとかニューメディア時代に備えてパソコンとかワープロの講座を開いたらどうなのかというご提案がありました。これからの公民館で、パソコンやワープロの講座を開くことについてどのよう

荒川町公民館

実践記録シリーズ

(4)

「お父さんの教室」

家庭教育・本音で勝負



事業企画立案合議

公民館活動実践記録シリーズを復活しました。活動の苦心談・成功例などご送稿ください。

荒川町の公民館では現在十の学級定員は三十代、四十代で三十級、教室、講座を開講しております。学習日は五月、十一月までです。この中から「お父さんの教室」一回延七回、学習時間は午後七時三十分から午後九時までとなっております。この教室は今年より開設したものです。学習課題は激変する社会の動きに対応するため、当面する諸問題についての学習を行うこととす。内容については家庭、教育、学校と成人教育を合わせた内容とす。家庭教育は今日、一般に社会とのつながりの弱さや子どもに対する過保護、しつけの不足などが指摘されています。こうした中で、家庭における父親の果たす役割の大切さが言われています。成人教育では家族相互の円滑的な絆が強く、家庭が社会性に乏しく、また閉鎖的になりがちであると指摘されています。従って、親が地域社会の一員として参加することにより子どもの社会性を伸ばすこととを旨としています。対

象定員は三十代、四十代で三十級、教室、講座を開講しております。学習日は五月、十一月までです。この中から「お父さんの教室」一回延七回、学習時間は午後七時三十分から午後九時までとなっております。この教室は今年より開設したものです。学習課題は激変する社会の動きに対応するため、当面する諸問題についての学習を行うこととす。内容については家庭、教育、学校と成人教育を合わせた内容とす。家庭教育は今日、一般に社会とのつながりの弱さや子どもに対する過保護、しつけの不足などが指摘されています。こうした中で、家庭における父親の果たす役割の大切さが言われています。成人教育では家族相互の円滑的な絆が強く、家庭が社会性に乏しく、また閉鎖的になりがちであると指摘されています。従って、親が地域社会の一員として参加することとを旨としています。対



料理教室との交歓会

(荒川町公民館長 橋本 幸田)

